

ローマ日本文化会館



**積極的に多分野の日本を紹介
土曜日開館で利用者層も広げた**

多様な姿を持つ日本文化をバランスよく効果的に紹介することを心がけ、和紙一楮の恵み展、歌舞伎絵展、棟方志功展、天正・慶長遣欧使節とその時代展、ヴェルドーネ撰映画上映会、石井聰互監督特集上映会と同時に、それぞれに関連した講演会を開催。公演事業では、神田山陽氏の講談、座敷舞、素浄瑠璃などの伝統芸能、コンドルズ公演、渡辺香津美氏によるジャズ、若手日本人音楽家のクラシック、細川俊夫氏の現代音楽、演劇「注文の多い料理店」や高野喜久雄氏の現代詩の紹介を兼ねたコンサートなど多様なジャンルを取り上げました。その他、観客参加型の企画として香道と日本武道のデモンストレーション、日本茶セミナーを実施しました。

また、地方においても日本に興味を持つ人が増えていることから、各地の文化団体と協力しながらの地方展開も図っています。本年度は楮の恵み展をファブリアーノ市、ブスト・アルツィオ市で、清水宏監督特集をトリノ国立映画博物館で、素浄瑠璃公演をボローニャ、カリアリ、ヴェネチアで開催するために協力を行いました。



ローマ日本文化会館
©Mario Boccia



一刀流のデモン
ストレーション
©Mario Boccia

さらに、より親しみやすい文化会館を目指し、土曜日午前の開館を開始し、展覧会や庭園の見学、図書館の開館、日本語会話会などを行っています。日本語講座においては、夜間や土曜日に初心者向け短期コースを新たに3種設け、時間的に受講が困難であった社会人向けにもより充実した講座を開講しました。

ケルン日本文化会館



時流をつかんだ企画が好評

「大和の仏像写真」展、日独コミックアート展「ケーゲルブリッツ」、日独アーティストの作品を共通の主題のもとで紹介する「対話展」(2回)、「新世代アーティスト展」を開催したほか、ホールでは日中韓の古楽器によるアンサンブルの演奏や日本茶についてのレクチャー・デモンストレーション、元国際交流基金芸術家フェローによるパフォーマンスなどを実施しました。

「ケルン訪探! (Expedition Colonia)」「ケルン音楽の夜 (Kölner Musiknacht)」「美術館の長い夜 (Lange Nacht der Museen)」など、他団体との共催イベントにも積極的に参加しました。

また、現代詩人でありドイツ現代詩の翻訳者でもある鈴木俊氏とスイスの詩人・劇作家ベアト・ブレビュール氏による朗読会、徐京植・多和田葉子両氏講演会などのほか、映画部門では成瀬巳喜男氏、中川信夫氏らの監督特集を実施。ドイツの若年層で関心の高まっている日本のホラー映画を上映しました。

また、初級から上級までの一貫した日本語講座を運営し、図書館(蔵書約2万冊)では充実したリファレンス・サービスを提供しています。



日独若手作家対話展 Marco Bohr & Keiko Sato (2006年6~7月)



日本茶のレクチャー (2007年2月) 協力: 一保堂

パリ日本文化会館

画期的な切り口の企画で好評を得る 支援金を生かして実施した事業も多数

2006年度は本部巡回展の現代美術「日本の新世代アーティスト展」で幕を開け、秋には基金本部企画の「KATAGAMI-型紙とジャポニズム」展を開催し、約15,000名の入場者がありました。また倉敷の大原美術館と共催で、世界的版画作家をその肉筆画を含め初めて本格的にフランスで紹介する「棟方志功」展を開催しました。

舞台では「金梅子×大野慶人」および「美枝コカンポ×吉阪一郎、渡辺香津美氏らによる「ジャズ・イン・ジャパン 06」等で日本人と外国人のコラボレーションを行う一方、開館10周年記念第1弾としてダンスグループ「コンドルズ」による異色パフォーマンスを実施しました。また現代演劇の紹介にも力を注ぎ平田オリザ氏作・演出の青年団『S高原から』の7日間上演は画期的なものとなりました。

映画事業では、基金本部企画で31作品を上映した「成瀬巳喜男特集」、10周年記念事業として現存する36作品全てを上映した「小津安二郎大特集」と、それぞれ8,000名以上の観客を集めました。

上記事業は、パリ日本文化会館日本友の会および同館支援協会を通して得た民間企業からの支援金を生かして実施されたものです。

講演会では故・河合隼雄文化庁長官による「源氏物語」、本部企画での山下泰裕氏の柔道講演会が好評でした。

また図書館を運営、茶道、生花、書道、囲碁など教室も開いているほか、日本語教師支援事業を本格的に開始し、欧州日本語教師研修会を初めてアルザス地方で行いました。



©Takemoto Hayuji
「KATAGAMI-型紙とジャポニズム」展 『中型型紙 牡丹唐草模様』



セーヌ河畔に立つパリ日本文化会館

ブダペスト事務所

日本映画上映会、講演会を毎月定期的実施

4月にブダペスト国際図書展に参加、6月には大蔵流の狂言師による公演を3都市で行ったほか、9月には国立工芸美術館で歌舞伎絵展覧会を行い、吉村文氏による座敷舞の公演でオープニングを飾りました。また、国立フィルムアーカイブ傘下のウルクモズゴー映画館において、月に2回定期的に日本映画を上映し、広く市民に日本文化を楽しむ機会を提供するようにしました。

事務所が市の中心地に移転し、またスペースが広がったことから、図書館閲覧室を利用して、月に1回定期的にハンガリー人による日本関係の講演会を行うようにしましたが、11月には日本滞在記を出版した有名なコメディアンに講演をお願いし、多くの聴衆を集めることができました。図書館の来館者も増え、昨年度と比べて大幅な人数増に恵まれましたし、日本語講座はクラス数を増やし8クラスを週2回運営し、受講者数も大幅に増やすことができました。



ブダペスト事務所図書館閲覧室



美術史家ペトラー二氏講演会 5月

ロンドン事務所



講演会、映画上映会などのイベントが大好評

2006年度は、作家・池澤夏樹氏の講演会、現代日本の家族像を捉えた映画の特集巡回上映「Move Over, Ozu」、ダンスカンパニー・コンドルズ公演「Jupiter」など、現代日本文化のさまざまな姿を紹介する事業を中心に、数々のイベントを実施しました。

日本語教育分野では、従来から行っていたプロモーション事業の機動性を高めるとともに、日本語教育に携わる人材育成の観点も加味して、ボランティアによる StepOutNet 事業を立ち上げました。また、事務所のウェブサイトを通じた情報

発信の一環として、中等教育修了試験のシラバスに対応した教材を発表しました。

また、これまでに基金のフェロシップを受け、現在は第一線で活躍している研究者や芸術家を集めて会合を行い、日英交流の主要な担い手である彼らとの協力関係とネットワークを強化するとともに、高等教育レベルの日本研究支援の重要性を再確認しました。



ロンドン事務所



基金フェローのリユニオン会議

Close Up



所長 松永 文夫

イギリスの大学で日本語・日本研究専攻を希望する生徒が前年に比べ40%も増加したというニュースが最近話題になりました。若者を中心に対日関心が高まっている好機を捉え、より深い日本理解や息の長い交流につながるような事業を展開してゆきたいと考えています。

日本研究振興においては、英国全土に広がる基金創設当初から現在までの日本研究フェローを集めたリユニオン会議を開催。基金とフェロー、フェロー同士のネットワークの強化を図るとともに、今後の日本研究振興や若手研究者の育成の方途等につき議論を深めました。

また、日本語教育の分野では、大学の日本語教育担当者を集め、日本語コースの現状や課題について情報共有や協議を実施。芸術の分野でも、ミュージアム・エデュケーションのセミナーを行ったほか、日英のネットワーク形成にも参画しました。英国の政府関係組織や文化交流団体との連携のほか、当地に進出している日系の企業や団体とのネットワーク作りにも努力しています。

ポップカルチャー等の影響で高まった日本への関心を、より深くより永続的なものとするためには、初中等教育機関や大学、各地の文化芸術団体、政府機関等、より多くの多様な担い手との有機的連携を進めることが肝要だと考えています。

文化芸術、日本研究・知的交流、日本語教育という文化の広範な領域に総合的に対応できるジャパンファウンデーションだからこそできる事業展開を常に図っていきたいと思っています。

カイロ事務所



民間協力を得てさらに広がる日本語事業

中東地域の日本語教師を集めて、カイロにて「中東日本語教育セミナー」を開催し、中東域内の教師の研修やネットワーク作りを促進しました。エジプト国外からの参加者24名を含めて、計62名が参加しました。

日本語事業では更に、エジプト第二の都市アレキサンドリアにおいて、日本語の一般市民講座(受講者52名)を民間協力により開始することができました。アレキサンドリアは地方における日本文化交流拠点であり、日本語講座開設を記念してアレキサンドリア図書館において、当事務所が所蔵する「日本の世界遺産写真パネル」展を実施しました。

芸術交流では、カイロ・オペラハウスにおいて琴・バイオリンによる伝統音楽演奏会、日本人フルート奏者とエジプト人バイオリン奏者等が共演するコンサートを実施し、若者を中心に多くのエジプト人を魅了しました。

また、中東域内拠点事務所として、アンマンにおいて在ヨルダン日本大使館の共催により日本映画祭を実施し、のべ500名以上の観客を集めました。



日本人・エジプト人による室内楽



図書室の閲覧スペース